

## 研究実施のお知らせ

研究課題名：集中治療室における酸素療法を要する症例に対する高流量経鼻酸素療法の有効性の検討

研究期間： 仙台市立病院倫理審査委員会承認日～2025年12月31日

仙台市立病院では、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成29年5月30日施行）に基づき、匿名化された情報（診療録等）の研究利用について、以下に公開いたします。

### 【研究の対象となる方】

2014年11月～2025年12月に当院集中治療室で高流量経鼻酸素療法を受けた方

### 【研究の目的と意義】

集中治療室で治療される方は酸素を必要とすることが多く、酸素療法を受ける方が多いです。酸素療法に用いる機器には酸素マスクといった酸素を低流量流すものから、高流量経鼻酸素療法といった高流量を流すものまであります。高流量経鼻酸素療法は精密に酸素の濃度を調整できることや、僅かではありますが患者さんが呼吸する力を助けたり、肺がしぼんでしまうのを防いだりする効果があります。低流量からはじめて、足りなければ高流量酸素療法に移行するのが一般的ですが、集中治療室で治療される方は肺の状態を悪くしないためにははじめから高流量経鼻酸素療法を行うことがあります。そこで、低流量酸素療法から高流量経鼻酸素療法へ移行した方と、はじめから高流量経鼻酸素療法を使用した方を比較させていただき、どのような良い点があったのかを調べさせていただきたいと思います。

### 【研究の方法】

研究者が所属する医療機関の患者様の診療録等の診療情報を用いて、集計、単純な統計処理等を行う後ろ向き研究です。

### 【研究に用いる試料・情報の種類】

診療録に記録された診療情報（年齢、性別、身長、体重、経時的な呼吸や肺の状態、高流量経鼻酸素療法以外の酸素療法の有無、集中治療室滞在日数、入院日数等）を、研究に使用させていただきます。使用に際しては、倫理指針等により個人情報厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

### 【お問い合わせ先】

この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者さんの情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が学会発表・論文などで公表されていた場合などは、完全に廃棄できません。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先までお問い合わせください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

仙台市立病院 麻酔科

研究責任者 安達厚子

麻酔科科長 安藤幸吉

仙台市太白区あすと長町一丁目 1 番 1 号

電話：022-308-7111（代表）